

晴天の心



月次祭 5月19日(月) 午前10時～
婦人会例会 5月9日(金) 午前10時～

今年は少し長く桜が楽しめてい
ますね。写真は、薬師寺で行われた花
会式の行事の一つ、鬼追い式での1
シーンです。

祓い清めるといのは、様々なシー
ンであります。水やお酒、塩がよく
使われますね。火も祓うことに使
われることがあります。

もっとも、扱いが難しいと思います。
祓い清めるといことは、不浄なも

のから身を守るとか、場所などを神聖な力で落ち着くようにすることなのでしょう。

4月は転勤や新生活を始めることが多い時期だと思えます。
ささやかなことではありますが、入居する前に、塩水を小皿に用意して、榊の葉っぱを使
って、神名てんりおうのみことを唱えながら塩水を新しくすむ部屋に玄関から時計回りに
各隅で振りかけながら一周することで、清めることができます。
家の敷地では、塩水だけでなくお下がりの御神酒を土地の四隅に神名を唱えて撒くことで、
土地を清めることができます。

また、結界を張る意味で、部屋の四隅に御供(おごく)をピンやテープで留めるとかな
り堅いバリアができます。

御供は、水で神名3度唱えながらいただくことで、病も治まります。
各地の教会でお願いすれば戴けます。また、教会本部神殿下、もしくは教祖殿東側で、お
供えを行うと、いただくことができます。

春の秋に大阪教区で献米が行われますが、献米されたお米は、この御供(おごく)として
使われます。3月末もしくは4月末に各教会に下附されます。
おやさまは不浄なものはないと言われてはいます。ただ、世の中
の人にとってよくわからない現象事象が起こると、不安になる
ものですから、気持ちを整理して落ち着かせるために、祓い清
めるといことを行うといいと思えます。

新しい生活を始めるときに、清らかな場所で暮らし、日々を
陽気に過ごせますように。

<おやのこころ>

将来の計画や予定を立てることが好きで、若いころから、よく毎日のスケジュールや今後のプランを机の周りや本棚に貼り
つけては、自分を鼓舞してきました。

コンピューターを使うようになってからは、デスクトップ(最
初の画面)にメモを貼りつけるソフトを使っていますが、それ
でも部屋中が貼り紙でいっぱいになってしまいます。

ほとんどが無理な計画や目標なので、いつも予定の半分くら
いしか実現できません。それでも毎日貼り紙を見続けているう

今日の
おやのこころ

「成らん処救けるが神の理」

成らん処救けるが神の理。

成る処救けえでも、先々も治まる、
思う処も治まる。



ちに、少しずつ目標の実現に近づいていくものです。

人間の計らいによって実現可能な事柄は、創意工夫や努力を積み重ねることによって、必ず成果が表れてきます。だからこそ、将来に希望を持つことが可能なのです。

しかし、人生行路においては、人間の計らいを超えた、どうすることもできない事態に直面することが少なくありません。

自分の力だけを過信する人は、どうにもならない事態に直面したとき、不運を嘆いて、望みを失うことになるでしょう。しかし、この道の信仰は、このような「ふし」に直面したときにこそ真価を発揮します。

「成らん処救けるが神の理」

私たちには、いかなる場合も絶望することなく、今日を生きる希望が与えられているのです。

．．．

明治三十二年十月十八日 佃巳之吉女兒出直しに付心得のため願

さあ／＼尋ねる事情／＼、さあどうむ心得ん。いかな事情もあろ。

尋ねる一つだんだん年限通り年限の理を以て掛からにやならん。教会という理を聞き分け。皆々心治まる。日々一つの理心に持たず、神の理心の理惣々の理鮮やかなる理に治め。道という一つどういふもの。教会地所という、小人楽しんだ理。何が違ふであろう、

どんなものであろう、心に掛かる。我が子の顔見たら可愛い理。道という成らんとするやうである。成ると言えば成る。その心成程、表に一つ真の心治まれば、治まらんでない。

真の心を世上の心ならんと言えば成らん、成ると言えば成る。

道を改め。先も教会の道を治まらにや、教会も治まらん。道もおつとうり、煩う心をこうと聞き捨てゝ了うたら／＼、又道という。

道を心に勇むなら、神も勇む。

細こう聞き取って人を喜ばせば、神も喜ぶ。

成らん処救けるが神の理。

成る処救けえでも、先々も治まる、思う処も治まる。あちらこちら送る、小人連れて戻る。一時世上一つの理も無きにも方々惣々の中に、教会役々の理に伝え。

何処で見ても方々あちら欠き、重なる者一つの理で治まる。

これまで一つ立て替え。この順序聞き取って万事治め方と言う。

．．．



このおさしづ全文を読んで、いくつかのキーワードがあると思います。一つは教会の治めかた、神様が喜んで働くための心の持ち方、そして最後に神様の力の大きさ。

教会を治めるということは、その人の真の心が定まって、もたれれば、成ると言えば成る。そのためには、道（天理教の教え）を常に心に持って勇んで暮らすなら、神様も喜んで、勇んで助けてくださる。「人間はじめかけたのは、陽気遊山が見たい故から」につながりそのために、成らん処を神様が助けてくださる。

私はそう読みました。

神様はいつもそばにいて私たちを見守ってくださっていて、「人救けたら我が身救かる」という、基本の教えに沿って行動し実践することで、ポイントがたまっていき、いざとなったときに、ほれ！ようがんばったなあ！大丈夫やで。と、助けてくださるのです。

この神様のポイントは私たちは見ることができないけど、時々、あっと思うことがあると思うのです。世間では偶然だとか、たまたまだとか感じる出来事を体験することがあります。しかし、よくよく考えると、そう成るように成っていたことがわかると、これは神様に仕組まれたことだったんだと、ああ神様と喜ぶことができると思います。

まずは、毎日を喜んで勇んで元気に過ごすことから始めましょう。

教祖伝逸話編 36. 定めた心

明治七年十二月四日（陰曆十月二十六日）朝、増井りんは、起き上がろうとすると、不思議や両眼が腫れ上がって、非常な痛みを感じた。

日に日に悪化し、医者に診てもらおうと、ソコヒとのことである。そこで、驚いて、医薬の手を尽したが、とうとう失明してしまった。夫になくなられてから二年後のことである。こうして、一家の者が非歎の涙にくれている時、年末年始の頃、（陰曆十一月下旬）当時十二才の長男幾太郎が、竜田へ行って、道連れになった人から、「大和庄屋敷の天竜さんは、何んでもよく救けて下さる。三日三夜の祈祷で救かる。」という話を聞いてもどった。



それで早速、親子が、大和の方を向いて、三日三夜お願いしたが、一向に効能はあらわれない。そこで、男衆の為八を庄屋敷へ代参させることになった。朝暗いうちに大県を出発して、昼前にお屋敷へ着いた為八は、赤衣を召された教祖を拝み、取次の方々から教の理を承わり、その上、角目角目を書いてもらって、もどって来た。

これを幾太郎が読み、りんが聞き、

「こうして、教の理を聞かせて頂いた上からは、自分の身上はどうなっても結構でございます。我が家のいんねん果たしのためには、暑さ寒さをいとわず、二本の杖にすがってでも、たすけ一条のため通らせて頂きます。今後、親子三人は、たとひ火の中水の中でも、道ならば喜んで通らせて頂きます。」

と、家族一同、堅い心定めをした。りんは言うに及ばず、幾太郎と八才のとみゑも水行して、一家揃うて三日三夜のお願いに取いかかった。おちばの方を向いて、なむてんりわうのみことと、繰り返し繰り返して、お願いしたのである。やがて、まる三日目の夜明けが来た。火鉢の前で、お願い中端座しつつけていたりんの横にいたとみゑが、戸の隙間から差し来る光を見て、思わず、「あ、お母さん、夜が明けました。」と、言った。

その声に、りんが、表玄関の方を見ると、戸の隙間から、一条の光がもれている。夢かと思いながら、つと立って玄関まで走り、雨戸をくると、外は、昔と変わらぬ朝の光を受けて輝いていた。不思議な全快の御守護を頂いたのである。



りんは、早速、おちばへお礼詣りをした。取次の仲田儀三郎を通してお礼を申し上げると、お言葉があった。

「さあ／＼一夜の間に目が潰れたのやな。さあ／＼いんねん、いんねん。神が引き寄せたのやで。よう来た、よう来た。佐右衛門さん、よくよく聞かしてやってくれますよう、聞かしてやってくれますよう。」

と、仰せ下された。その晩は泊めて頂いて、翌日は、仲田から教の理を聞かせてもらい、朝夕のお勤めの手振りを習いなどしていると、又、教祖からお言葉があった。



「さあ／＼いんねんの魂、神が用に使おうと思召す者は、どうしてなりと引き寄せるから、結構と思うて、これからどんな道もあるから、楽しんで通るよう。用に使わねばならんという道具は、痛めてでも引き寄せる。悩めてでも引き寄せねばならんのであるから、する事なす事違う。違はずや。あったから、どうしてもようならん。ようならんはずや。違う事しているもの。ようならなかったなあ。さあ／＼いんねん、いんねん。佐右衛門さん、よくよく聞か

してやってくれますよう。目の見えんのは、神様が目の向こうへ手を出してござるようなものにて、さあ、向こうは見えんと言うている。さあ、手をのけたら、直ぐ見える。見えるであろう。さあ／＼勇め、勇め。難儀しようと言うても、難儀するのやない程に。めんめんの心次第やで。」



と、仰せ下された。その日もまた泊めて頂き、その翌朝、河内へもどらせて頂こうと、仲田を通して申し上げてもらおうと、教祖は、

「遠い所から、ほのか理を聞いて、山坂越えて谷越えて来たのやなあ。さあ／＼その定めた心を受け取るで。楽しめ、楽しめ。さあ／＼着物、食べ物、小遣い与えてやるのやで。長あいこと勤めるのやで。さあ／＼楽しめ、楽しめ、楽しめ。」

と、お言葉を下された。りんは、ものも言えず、ただ感激の涙にくれた。時に、増井りん、三十二才であった。

註 仲田儀三郎、前名は佐右衛門。明治六年頃、亮助衛門廃止の時に、儀三郎と改名した。

<<うれしい電話>>

先日、教会の電話に携帯電話 090-からの着信があったので受話器を取って話を聞くと、北海道の教会長さんが、どうしても伝えなかったと電話してこられたのです。

それは、昨年 9 月の布教月間の時に作成した動画を見て、感動されているいろいろな教友に奨めていること、もっと動画の続きは無いのかということ、コメントしたかったのだけでも、うまく出来なかったので、居ても立ってもいられず直接電話をしたのだそうです。

コメントは書かれていない事が多いのですが、まさかこうして直接話しかけられることがあるとは思いませんでした。

このことを通じて、見ている人が居ること、そしてその内容を励みにして勇んでおられること、また、続きを見たいと願っていることが伝わってきました。これは続けろという、神様のメッセージ。教友ばかりが見るとは限らない動画サイトですから、ささやかなにおいがけにもなるのでしょうか。たまたま、動画編集にむいた PC もお与えいただきましたので、今月から再開しています。どうぞ動画サイトも楽しんでみてください。

富石分教会 www.youtube.com/@tomiishi-bc



富石分教会

@tomiishi-bc · チャンネル登録者数 371人 · 87 本の動画
天理教富石分教会 伏井啓之のページです。...さらに表示
tomiishi.net

チャンネルをカスタマイズ

動画を管理

ホーム 動画 投稿 🔍



北寮幹事コーラス 高校卒業時に頂いたカセットテープ

1,747 回視聴 · 11 年前

ここは親里、北寮東寮幹事のテーマ、卒業生に捧げる歌、幹事に捧げる歌

高校卒業時に頂いたカセットテープが原本

コマカンの名曲「ここは親里」の原本

後からアレンジされてヒットになりましたね